

大切な自然を次代へ

津山で森林づくり植樹祭

「市民参加の新たな森林づくり春・植樹祭」(市・県主催)は5月20日、津山町柳津字大土地内で開かれ、約60人が参加し、植樹作業に汗を流しました。

植樹祭は、地球環境を守るために大切な森林を次代に残すため、毎年春と秋に開催。県の「みやぎ環境税」を活用して実施しています。参加者は、0.45%の市有林敷地に、約900本の品種改良された低花粉スギの苗木を植樹。参加した橋本一男さん夫妻＝津山町元町第二＝は「孫の成長を願い、記念に植樹しました。孫も苗木もすくすく成長してほしいですね」と笑顔で話していました。



参加者は唐くわを使って穴を掘り、苗木を植樹。緑豊かな森林に育つよう願いました。

風情とお茶を味わう

第30回とよま茶会開催

「とよま茶会」(同実行委員会主催)は4月29日、教育資料館(旧登米高等尋常小学校)、遠山之里、みやぎ北上商工会登米支所の3会場で開かれ、市内外から800人以上の来場者が訪れました。

とよま茶会は今回で30回目。来場者は、登米の風情や歴史を感じながら、入れたてのお茶と和菓子を味わいました。仙台市から訪れた高橋七海さんは「参加者がとても多くてびっくりしました。以前から教育資料館に来たいと思っていたので、より雰囲気を感じられる茶会に参加できてよかったです」と顔をほころばせていました。



教育資料館内に設けられた茶席。お茶と色鮮やかな和菓子が、風情あふれる雰囲気を、より一層引き立てていました。

女子目線で意見交換

まちづくりテーマに実施

「OH・TO・ME-101人女子会」は5月26日、南方農村環境改善センターで開かれ、市内に在住、在勤する女性97人が参加しました。

女子会は、女性の声を反映させて誰もが生き生きと暮らせるまちをつくるため、今後設置する「登米市女性会議」のキックオフイベント。参加した伊藤梓さん(36)＝中田町川面＝は「どうすればよりよいまちになるか、いろんな世代の人と語り合い、皆さんの意見や悩みなどを共有することができました。みんなが気軽に集まることができる場所があるといいですね」と感想を話していました。



全員で話し合ったような効果が得られるワールド・カフェ形式で実施。メンバーの組み合わせを変えながら話し合いました。

きれいな心で花植え

5小学校で人権の花運動

「人権の花運動」(登米人権擁護委員協議会主催)は5月7から11日まで、加賀野、佐沼、南方、米岡、登米の5小学校で実施されました。

人権の花運動は、市内小学生が花をいっしょに育てることを通して「思いやりの心」と「命の大切さ」を学ぶことが目的。佐沼小学校では、5年生108人が登米総合産業高校の生徒の協力を得ながら、3人一組でサルビアやマリーゴールドなどの苗を植えました。高橋正則校長は「花は人の心をきれいにしてくれます。花植えの作業で手は汚れるかもしれませんが、きれいな心を持って頑張りましょう」と話していました。



産業高生を講師にマリーゴールドなどを植える児童たち。花植えを通じて「思いやりの心」と「命の大切さ」を学びました。

生き生きと健康生活

健康フェスティバル開催

「2018生き生き健康フェスティバル」は5月26日、登米祝祭劇場で開かれ、参加者は生涯健康で生活するための知識を学びました。

会場には、健康チェックやがん予防など、健康寿命を延伸するためのさまざまな展示・体験コーナーを設置。食生活改善コーナーでは、減塩のみそ汁が提供され、来場者は、家庭で作る味と比較していました。大ホールでは、お笑いコンビTIMのゴルゴ松本氏が「ゴルゴ塾命の授業」をテーマに、漢字の持つ意味や由来について講演。ユーモアを交えながら話す、魂のこもった熱演に、会場は終始笑い声があふれていました。



食生活改善コーナーや受動喫煙ゼロコーナーなどのブースに、たくさんの方が訪れ、普段の生活を見つめ直していました。

楽しさと苦労を体験

逢隈中がファームステイ

亘理町立逢隈中学校の2年生97人は5月15、16の両日、東和町をはじめとする市内26世帯に宿泊し、農村生活を体験しました。

農家の藤原賢一さん(71)＝東和町米川10区＝宅には、佐藤陽潤さん、高橋来雅さんと佐藤七瀬さんの3人が宿泊。自宅に到着後すぐに田植え作業をしました。藤原さんは「体験に来た生徒たちとは親戚のように接している。農業に親しみを持ってもらいたい」と話し、陽潤さんは「田んぼに入るのは初めて。すごく歩きにくくて大変でしたが、なんとか植えることができました」と汗を輝かせながら田植えを体験していました。



田植え機で植えた後に、苗を植え直す生徒たち。バランスを崩しながらも、苗を一つ一つ丁寧に植えていました。